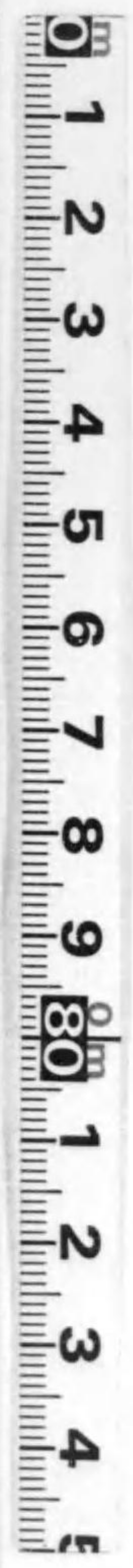


1421

275



始



明治四十五年度  
大正元年度  
京都府立農事試驗場業務功程

京都府立農事試驗場

目次

本場之部

(一)	水稻ニ關スル試驗	一
一、	豐凶考照試驗	一
二、	品種試驗	一
三、	播種量對一株苗數試驗	七
四、	深耕ト植栽トノ關係試驗	八
五、	石灰窒素效果試驗	九
六、	石灰窒素施用試驗	九
七、	窒素肥料種類連用試驗	一
八、	石灰窒素連用試驗	一
九、	深耕ト肥料用量試驗	一
一〇、	同價肥料試驗	一
一一、	能登特產石灰肥効試驗	二
一二、	綠肥式穀作法試驗	二
一三、	採種用作	三

正  
2. 10. 6  
内交

(二) 麥作ニ關スル試驗

一、 豊凶考照試驗……………三頁

二、 品種試驗……………四頁

三、 深耕對畦形試驗……………四頁

四、 深耕ト肥料用量試驗……………四頁

五、 窒素肥料種類連用試驗……………五頁

六、 石灰窒素連用試驗……………五頁

七、 石灰窒素施用方法試驗……………五頁

八、 施肥改良試驗……………五頁

九、 採種用作……………六頁

一〇、 農商務省委託麥芽用大麥試驗……………六頁

(三) 調査事業

一、 螟虫ニ關スル調査……………七頁

二、 稻麥特性調査……………七頁

三、 分蘖力調査……………七頁

(四) 見本試作

一七頁

(五) 圓筒夏作試驗

一、 三要素試驗……………八頁

二、 石灰窒素施用期試驗……………八頁

三、 酸性土壤石灰加用試驗……………八頁

四、 腐植質土壤石灰加用試驗……………八頁

五、 腐植質土壤三要素試驗……………九頁

六、 腐植質土壤對肥料反應試驗……………九頁

七、 石灰窒素肥効比較試驗……………九頁

(六) 圓筒冬作試驗

一、 豈科植物對肥料反應試驗……………九頁

二、 三要素試驗……………九頁

三、 酸性土壤石灰加用試驗……………〇頁

四、 石灰窒素施用期試驗……………〇頁

(七) 蒲生野原野腐植質土壤石灰加用試驗

二〇頁

(八) 委託試驗

二〇頁

(九) 養 鶏

二二頁

桃山分場之部

(一) 果樹ニ關スル試驗

一、	梨品種試驗.....	二
二、	桃品種試驗.....	三
三、	李品種試驗.....	三
四、	櫻桃品種試驗.....	三
五、	蘋果品種試驗.....	四
六、	葡萄品種試驗.....	四
七、	品種見本試作.....	四
八、	高等栽培.....	五
九、	病害試驗.....	五

(二) 蔬菜ニ關スル試驗

一、	里芋品種試驗.....	六
二、	南瓜品種試驗.....	六
三、	馬鈴薯品種試驗.....	六

綾部分場之部

(一) 蔬菜ニ關スル試驗

四、	大根品種試驗.....	二
五、	苤類品種試驗.....	七
六、	軟化葱品種試驗.....	七
七、	大根播種期試驗.....	七
八、	香辛料植物見本試作.....	七
九、	高等栽培.....	八
(三)	見本試作.....	八

一、	茄子品種試驗.....	九
二、	南瓜品種試驗.....	九
三、	越瓜品種試驗.....	九
四、	甘藷品種試驗.....	九
五、	瓜哇薯品種試驗.....	九
六、	薯蕷品種試驗.....	〇
七、	薑品種試驗.....	〇
八、	萊菔品種試驗.....	〇

九、	萊服播種期試驗.....	三
一〇、	蕪菁品種試驗.....	三
一一、	蕪菁播種期試驗.....	三
一二、	苾類品種試驗.....	三
一三、	苾類播種期試驗.....	三
一四、	葱品種試驗.....	三
一五、	葱取扱法試驗.....	三
一六、	蠶豆品種試驗.....	三
一七、	甘藷插植期試驗.....	三
一八、	夏葱品種試驗.....	三
一九、	胡瓜品種試驗.....	三
二〇、	蕪菁肥料試驗.....	三
二一、	苾室素質肥料試驗.....	三
二二、	胡瓜病害豫防試驗.....	三
二三、	胡瓜窒素施用量試驗.....	三
二四、	南瓜肥料試驗.....	三
(二)	果樹ニ關スル試驗	
一、	梨品種試驗.....	三
二、	葡萄品種試驗.....	三

雜之部

(三)	見本試作	三
三、	苹果品種試驗.....	三
四、	生栗殺虫法試驗.....	三
五、	生栗貯藏法試驗.....	三
六、	生栗品種貯藏力試驗.....	三
(一)	印刷物	三
(二)	職員出張件數	三
(三)	種苗配布數量	四
(四)	野鼠驅除	四
(五)	依頼分析件數	四

(六)	場用分析件數	四二頁
(七)	質問應答件數	四三頁
(八)	文書受發件數	四四頁
(九)	來觀人數	四四頁
(一〇)	會計事務	四四頁
(一一)	職員	四五頁

明治四十五年度 京都府立農事試驗場業務功程

大正元年度 京都府立農事試驗場本場及ビ分場ニ於テ施行セシ試驗事項及ビ成績并ニ其他ノ事項左ノ如シ

本場ノ部

(一) 水稻ニ關スル試驗

一、豐凶考照試驗

本試驗ハ明治三十五年度ヨリ繼續セルモノニシテ年々同一地ニ同一品種ヲ等一管理耕種ノ下ニ早中晚稻各三品種宛ヲ栽培シ大暑、二十十日、秋分當時ニ於ケル生育狀況ニヨリ毎回はレヲ平年ト比較對照シ以テ其年ニ於ケル稻作豐凶ヲ豫想シ之レヲ其筋ニ報告ス

二、品種試驗

明治三十九年度ニ於テ從來試驗セル成績ニ基キ撰定シタル品種ヲ標準トシ前年及ビ前々年度本府下各郡ニ於テ栽培セル品種ニ就キ其性狀ヲ究メ分類上ノ型ニヨリテ得タルモノト農事試驗場畿内支場ニ於テ育成セラレタル品種トニ付キ其優劣ヲ比較シ更ニ本府適應ノ品種ヲ撰擇セントスルニアリ

供試品種ハ  
標準種 十二種 (粳十種 糯二種)  
是レニ八十五品種ヲ加ヘタル九十七品種ナリ  
今是レガ成績ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ

粳稻種

品名	出穗期	收穫期	當一反歩玄米收量重	玄米一升量	葉量	米質ノ良否	種子取先	備考
地藏早稻	八月十日	九月廿七日	一、九七八	三八四	七三、五〇〇	上	葛野郡	
六十八日	同 十四日	同	二、五四九	三八三	一〇八、六〇〇	上	宇治郡	
筑前早稻	同 二十七日	十月廿五日	二、七五五	三八二	二〇四、三〇〇	中	南桑田郡	
尾張早稻	同 十三日	九月廿七日	二、四一二	三七五	九九、六〇〇	上	同	
白坊主	同 二十三日	十月七日	二、三二九	三八二	一〇四、四〇〇	中	北桑田郡	
四ツ屋	同 十五日	同	二、六七五	三八七	七六、五〇〇	上	加佐郡	
德四郎	同 十七日	同	二、一五六	三八九	一二三、〇〇〇	上	同	
大濃早	同 二十日	十月八日	三、一八七	三八九	一五六、九〇〇	上	同	
美濃早	同 十四日	同 四日	二、八六八	三七三	一一七、九〇〇	上	同	
上州	同 十四日	同	二、三〇六	三七四	一〇三、七〇〇	上	竹野郡	
白州	同 十四日	九月廿七日	二、四八九	三七九	一〇八、〇〇〇	上	新潟縣	
早稻	同 八月廿三日	十月四日	一、九四〇	三七〇	八一、六〇〇	上	伊太利	
畿内早三號	同 二十一日	同	二、三六一	三六四	一一四、四〇〇	上	畿内支場	母大場、父信州金子
同 早五八號	同 十日	同 二十五日	三、二一九	三七〇	一四四、九〇〇	上	同	母五ヶ早稻、父神力
同 同	同 十日	九月廿七日	二、四一九	三八二	九一、五〇〇	中	石川縣	早稻標準種
同 同	同 十日	同	二、一〇〇	三八六	七〇、五〇〇	上	何鹿郡	早稻標準種

福器量	同 二十八日	十月廿五日	二、五三三	三六一	一四六、〇〇〇	中	葛野郡	
米器量	同 二十七日	同	二、八九九	三七一	一一六、四〇〇	中	同	
榮者	同 二十七日	十月八日	二、二一四	三九三	一三五、六〇〇	上	乙訓郡	
長和	同 二十七日	同 十五日	二、三六二	三七七	一四九、二〇〇	上	北桑田郡	
大箱	同 同	同 二十五日	二、八〇八	三七四	一八〇、八〇〇	上	同	
箱和	同 同	同 八日	二、一七四	三六四	一四三、二〇〇	上	船井郡	
オサ	同 二十一日	同 十五日	一、九六四	三八三	一一八、八〇〇	上	天田郡	
中村	同 八月廿一日	十月十五日	一、八一三	三八四	一四六、四〇〇	上	何鹿郡	
小志	同 三十一日	十月廿六日	二、三五二	三八〇	一一七、六〇〇	下	同	
中生	同 二十七日	同	三、五四七	三六四	一二九、六〇〇	中	加佐郡	
西方	同 二十八日	同	三、三四三	三七五	一七四、四〇〇	下	同	
岡山	同 二十二日	同	一、四六二	三八三	一五〇、四〇〇	上	竹野郡	
朝日	同 同	十月十日	二、四三〇	三九〇	一三八、四〇〇	上	同	
畿内中二號	同 二十五日	二十日	二、六八二	三七九	一四八、八〇〇	上	畿内支場	母神力、父福山
同 四號	同 二十六日	同 二十五日	二、七九二	三八〇	一三七、〇〇〇	上	同	母荒木、父神力
同 四七號	同 九月一日	同 二十八日	二、六八三	三七六	一二六、〇〇〇	上	同	母宿禰、父竹成
東京	同 八月廿七日	同 二十五日	二、四五二	三七九	一二四、八〇〇	上	船井郡	中稻標準種
八重	同 九月一日	同 二十六日	二、九〇六	三七九	一七六、六〇〇	上	乙訓郡	
五反	同 八月卅一日	十一月四日	二、七四二	三六九	一七四、〇〇〇	中	東京	



福	伊勢	大	與	袴	江州	大	周	丹	播	月	白	東	新	大	明	精	岩	奈	大
山	錦	國	助	隱	穗	原	山	波	州	本	本	寺	州	州	治	力	水	保	官
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二十	二十九	二十九	九月	三	一	八月	八月	八月	九月	八月	九月	九月	八月	八月	八月	九月	九月	八月	八月
二日	日	日	一日	日	日	廿八	廿七	廿三日	廿三日	廿九日	廿九日	廿六日	廿八日	廿七日	廿七日	廿九日	廿七日	廿七日	廿七日
十月	十月	十月	十一月	十一月	十一月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十一月	十月	十月	十月	十一月	十一月	十月	十月
十日	二十二日	二十二日	十一日	十一日	十一日	廿一日	廿一日	廿一日	廿八日	廿八日	廿八日	三十日	三十日	三十日	三十日	四日	四日	九日	九日
二、二五七	一、七九六	二、八二九	二、七四六	三、〇二三	三、二九四	二、八二六	二、八八六	二、七四〇	二、八七九	三、一八〇	二、七三一	二、八五八	三、三八八	二、九二〇	三、〇五〇	三、二五八	三、〇七五	三、一九九	二、七八七
三八三	三八五	三八〇	三七三	三七三	三六六	三七六	三八〇	三七六	三七五	三七〇	三七〇	三七〇	三六八	三七七	三七〇	三七〇	三七二	三七二	三八〇
一、二、八〇〇	一、四〇、〇〇〇	一、四二、八〇〇	一、五二、七〇〇	一、八六、三〇〇	二、〇三、四〇〇	一、四三、四〇〇	一、〇三、五〇〇	一、五三、五〇〇	一九七、一〇〇	一、三三、〇〇〇	一、六一、四〇〇	一、六一、四〇〇	一、三九、八〇〇	一、四〇、四〇〇	一、八三、九〇〇	一、八一、一〇〇	二、二三、八〇〇	二、〇七、六〇〇	一、六三、八〇〇
上	上	中	下	中	下	中	中	中	中	上	中	下	中	中	中	下	中	下	中
鳥取縣	三重縣	葛野郡	同	同	同	同	同	同	同	乙訓郡	字治郡	同	同	同	綴喜郡	同	同	同	同
中稻標準種	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

渚	八	大	佐	相	京	小	赤	藤	善	住	赤	千	目	鬼	小	改	赤	幾	同
倉	出	賀	良	樂	本	本	松	本	七	寺	吉	吉	本	本	錦	本	好	號	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二十	二十一	三十	三十	十八	三十	三十一	三十一	二十九	二十七	二十七	二十五	二十五	三十	九月	九月	四月	四月	二	一
五日	二日	五日	五日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月
廿五日	廿六日	廿五日	廿五日	廿五日	廿六日	廿六日	廿六日	廿九日	廿九日	廿九日	廿九日	廿九日	廿九日	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月
二、四二七	一、九八一	二、五七七	二、九二六	二、〇六五	二、九〇五	二、八八七	二、〇〇九	二、八四一	二、三二四	二、三二四	二、三三〇	二、四六七	三、一六六	三、二九一	三、一七五	三、一七九	二、七六六	二、七〇三	三、一三一
二、八九一	二、八八一	二、九二六	二、〇六五	二、九〇五	二、八八七	二、〇〇九	二、八四一	二、三二四	二、三二四	二、三三〇	二、四六七	三、一六六	三、二九一	三、一七五	三、一七九	二、七六六	二、七〇三	三、一三一	二、八九一
三八二	三七七	三八三	三六七	三八三	三七〇	三七八	三六八	三七二	三八三	三八三	三八六	三七〇	三七六	三七七	三七七	三八五	三八六	三七〇	三七六
一、八一、一〇〇	一、七三、七〇〇	一、四二、八〇〇	一、五〇、三〇〇	一、九四、四〇〇	一、七三、七〇〇	一、八六、九〇〇	一、四四、六〇〇	一、八五、七〇〇	一、八〇、六〇〇	一、三二、〇〇〇	一、〇七、七〇〇	一、五一、二〇〇	一、五〇、〇〇〇	一、四七、六〇〇	一、八一、五〇〇	一、五三、六〇〇	一、八一、五〇〇	一、六四、一〇〇	一、七九、四〇〇
中	上	中	下	下	下	下	下	下	中	中	中	中	下	下	下	中	中	中	中
南桑田郡	同	同	何鹿郡	加佐郡	同	同	同	同	同	中郡	竹野郡	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

畿内晚	同	雄	竹	神
十二號	五	町	成	力
九月五日	同	八月卅一日	九月一日	同
十月廿八日	同	同	同	十一月一日
二、九九九	二、九六四	三、二二〇	二、八六四	二、九七〇
三五五	三七三	三七〇	三七二	三七五
二〇二、八〇〇	一七一、六〇〇	一七一、六〇〇	一四三、一〇〇	一八四、五〇〇
中	中	上	中	中
畿内支場	同	山口縣	三重縣	兵庫縣
母道海、父神力	母神力、父大和錦	晚稻標準種	同	同

善	白	遲	卵	黑	赤	早	出	善	赤	正	御
七						生	來	光			前
糯	糯	糯	糯	糯	糯	糯	糯	糯	糯	糯	糯
八月二十日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
十月二日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二、四八五	二、七八三	二、四五九	二、三二六	一、七八二	二、五一一	二、一一一	二、三一一	一、七六一	二、〇九八	二、三三三	一、六〇五
三七三	三五三	三五七	三六六	三七〇	三六三	三八三	三七一	三七六	三六五	三八九	三八七
一二八、七〇〇	一〇四、四〇〇	一四六、四〇〇	一三二、六〇〇	一四八、八〇〇	一一四、六〇〇	一一五、二〇〇	一七七、〇〇〇	一一一、九〇〇	一三七、一〇〇	一四三、七〇〇	一三七、四〇〇
中	下	上	中	中	中	上	中	中	中	上	上
乙訓郡	南桑田郡	同	天田郡	同	同	何鹿郡	與謝郡	中	同	新潟縣	同

毛	石	篠	元
丸	上	原	氣
糯	糯	糯	糯
同	同	同	同
十八日	十九日	同	同
同	同	同	同
二日	十五日	十九日	十日
一、九六四	二、五五二	二、四七九	二、四六七
三八〇	三七一	三八〇	三八二
七八、六〇〇	一三五、〇〇〇	一〇三、五〇〇	一三二、〇〇〇
中	中	上	上
當	枋	滋	紀
場	木	賀	伊
	縣	縣	郡

三、播種量對一株苗數試驗  
 同一面積ニ播種スベキ種子量ノ多少ト一株ニ植付クベキ本數ノ多少トノ關係ハ其收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ知ラントスルモノニシテ從來苗代一坪播種量ハ普通四合乃至五合一株ニ植付クベキ苗數ハ四本乃至五本ヲ以テ標準トセルモ播種量ヲ減シ所謂薄蒔トナシ苗代ニ於テ既ニ三四本ニ分蘖セシメタトヘ分蘖セザルモ一株ニ植付クベキ本數ヲ減シ一坪ニ植付クベキ株數ヲ増加スル時ハ其收量ニ於テ優ルトモ劣ルトモ無キ結果ヲ示スト言フ者アルヲ以テ左記ノ方法ニヨリ之レヲ施行セリ

試驗區別  
 當一坪株數  
 四十二株植

一 合蒔 一本植  
 二 合蒔 二本植  
 三 合蒔 三本植  
 四 合蒔 四本植  
 五 合蒔 五本植  
 六 升蒔 六本植  
 同 同 同 同 同 同

本年度ヨリノ創設ニシテ一回試驗ニテハ可否ノ斷定仕難キモ右成績ニヨレバ一升蒔ハ尤モ不良ナルモ

其他ハ殆ンド同様ノ結果ヲ見タリ次ニ苗ノ状態ニヨル植付ノ疎密ノ關係ニ就テハ左ノ方法ニヨリ試驗セリ

甲、分蘖苗(二本以上三分蘖セルモノ一本植)

乙、一本立苗一本植

第一區	三十六株植	三十六株植	方	一尺
第二區	四十二株植	四十二株植	東	一尺六分
第三區	四十八株植	四十八株植	南	八寸六分
第四區	六十株植	六十株植	西	一尺七分五分
			北	一尺七分五分

右ノ成績ニヨレバ甲乙、共ニ一坪株數ヲ増スニ從ヒ其收量ヲ増シ亦分蘖苗ト然ラザルモノトハ平均一段歩ニ付四斗餘ノ割合ニ分蘖苗區ノ優レルヲ見タリ

四、深耕ト栽植トノ關係試驗  
耕地耕鋤ノ深淺ト育成ヲ異ニシタルモノ、苗ニシテ插秧スベキ一株本數ノ多少ハ其生育收量ニ如何ナル關係アルヤヲ知ラントスルモノニシテ左記ノ六區ニ分チ試驗セリ(用地ハ從來ノ深耕試驗ノ跡地ニテ明治三十四年度以降深耕セル土地トス)

厚 <small>(坪一升蒔苗)</small>	第一區	普通耕	一株五本	坪四十八株植
	第二區	一寸深耕	同	同
	第三區	二寸深耕	同	同
	第四區	普通耕	一株二本	坪三十六株植

普通(坪二合蒔苗)

第五區	一寸深耕	同	同
第六區	二寸深耕	同	同

右ノ成績ニヨルニ厚蒔苗區ハ各區通シテ生育後レ且ツ不良普通苗區ハ生育宜シキノミナラズ收量ニ於テ平均一反歩ニ付一斗一升餘ノ增收ヲ見タリ

五、石灰窒素效果試驗

稻作ニ對スル石灰窒素ノ肥効ヲ硫酸アンモニヤノ肥効ト比較セントスルモノニシテ左ノ四區トセリ

硫酸安母尼亞 (甲)	過磷酸石灰	硫酸加里	強酸性
同 (乙)	同	木灰	弱酸性
石灰窒素 (甲)	同	硫酸加里	弱酸性
同 (乙)	同	木灰	弱酸性
其成績ニヨルニ硫酸安母尼亞區ハ共ニ草丈優ルモ收量ニ於テハ左表ノ如キ差ヲ見ニ至レリ		稿	鹽基性
硫酸アンモニヤ (甲)	玄米	一九八、〇〇〇	
同 (乙)	二、五三九	一九四、八〇〇	
石灰窒素 (甲)	二、六一二	一六四、〇〇〇	
同 (乙)	二、七九八	一七一、二〇〇	

六、石灰窒素施用試驗

石灰窒素施用ノ時期ト方法トヲ知ラントスルモノニシテ元來石灰窒素ハ下種又ハ栽植ノ際施用スル時ハ有害作用ヲ呈スルヲ以テ普通二週間前ニ施スヲ適當ナリトセリ然ルニ本府ノ如キ二毛作地大部分ヲ占ムル地方ニ於テハ前後作ノ期間短キヲ以テ之レカ施用ノ良法ヲ究メントシテ左ノ六區ニ分チ試驗セリ

- 第一 插秧二週間前圃場ニ施用
- 第二 二週間前廐肥ニ混シ置キ元肥ニ施用
- 第三 石灰窒素ヲ施用セズ
- 第四 插秧一週間前圃場ニ施用
- 第五 一週間前廐肥ニ混シ置キ元肥ニ施用
- 第六 插秧當日施用

七、窒素肥料種類連用試験

本年度ノ成績ニヨレバ第五區、第四區、第二區、第一區、第六區、第三區ノ順序ヲナシタリ  
 異ナレル窒素肥料ヲ基トシテ配合シタル肥料ヲ各作連年同一地ニ施用スルニ於テハ其地ノ理化學的性質ニ如何ナル變化ヲ來シ作物ノ生育收量ニ及ボス關係ヲ知ラントスルモノニシテ左ノ四區ニ分チ試験セリ但シ磷酸及ビ加里ハ各區共過磷酸石灰及ビ糞灰ヲ以テセリ

- 第一區 無窒素
- 第二區 硫酸アンモニヤ
- 第三區 人糞尿
- 第五區 廐肥

八、石灰窒素連用試験

本年度ノ收量ハ廐肥、人糞尿、硫酸アンモニヤ、無窒素ノ順ヲナセリ  
 同一地ニ石灰窒素ヲ各作連用スル時ニ於ケル石灰窒素ノ肥効ヲ永年ニ亘リ驗知セントスルモノニシテ効果試験ト相俟ツテ之レヲ知ラントシ左記ノ六區ニ分チ試験セリ

- 第一 硫酸アンモニヤ
- 甲 過磷酸石灰
- 硫酸加里
- 強酸性

第二	同	乙	同	木	灰	弱酸性
第三	石灰窒素	甲	同	硫酸加里	灰	弱酸性
第四	同	乙	同	木	灰	弱塩基性
第五	無窒素	甲	同	硫酸加里	灰	弱酸性
第六	同	乙	同	木	灰	弱塩基性

右成績ニヨルニ効果試験ト同様石灰窒素ノ効果優リ配合肥料タル硫酸加里區ハ木灰區ヨリ劣レルガ如シ

九、深耕ト肥料用量試験

耕地耕鋤ノ深淺ニ對シ肥料ノ用量ヲ異ニスルニ於テ耕地ノ性質ニ如何ナル變化ヲ來タシ稻作ニ如何ナル影響アルヤヲ知リ且ツ肥料ノ得失ヲ知ラントスルモノニシテ左ノ六區ニ分チ施行セリ

- 少肥區
  - 第一 普通耕
  - 第二 一寸深耕
  - 第三 二寸深耕
- 多肥區
  - 第四 普通耕
  - 第五 一寸深耕
  - 第六 二寸深耕

附記少肥區ノ肥料ハ當場普通施肥量ニシテ多肥區ハ之レニ五割量ヲ増セリ  
 其結果左ノ如シ

普通	少肥區	多肥區	多肥區ノ少肥區ニ比シ增收量
一寸深耕	二、五二一	二、九一二	三九一
一寸深耕	二、五六五	三、〇三二	四六七
二寸深耕	二、四八七	二、八七七	三九〇

一〇、同價肥料試驗

府下各地ニ廣ク使用セラル、各種ノ人造肥料其他ノ肥料ニ就キ其價額ヲ同ジクシテ之レガ肥効ノ優劣ヲ知ラントスルモノニシテ何レモ堆肥反當一百五十貫匁ヲ施シ供試肥料價ハ何レモ反當テ五圓トセリ供試肥料次ノ如シ

- 第一 ⑤ 稻 肥料
- 第二 ⑤ 別製稻肥料
- 第三 長尾肥料
- 第四 タ印多木肥料
- 第五 ル印多木肥料
- 第六 大阪完全肥料(第三號)
- 第七 アルカリ肥料(第六號)
- 第八 アルカリ肥料(第八號)
- 第九 鯨 粕
- 第十 菜種油粕
- 第十一 大豆 粕
- 第十二 人糞 尿

以上十二區トセリ  
右成績ニヨルニ各區大ナル差異ナキモ第六區最モ優リ第九區之ニ次ギ第十區及ビ第十二區ハ比較的劣レルモノ、如シ

一一、能登特産石灰肥効試驗

日本燐礦株式會社ノ製造ニ係ル石灰ハ微量ノ不溶解性燐酸并ニ滿俺ヲ含有シ稻作ニ特効アリト稱セラ

ヲ以テ普通生石灰ト比較シ果シテ優レルヤ否ヤヲ試驗セリ其成績ニヨレバ能登産石灰ハ普通生石灰ニ比シ肥効却ツテ劣レルモノ、如シ

一二、綠肥式穀作法試驗

米麥及綠肥ノ輪栽ヲ行ヒ之レガ肥料經濟及ビ利害ヲ知ラントスルモノニシテ裸麥跡最モ優リ紫雲英跡之レニ次キ大麥跡最モ劣レルヲ見タリ

一三、採種用作

當場品種試驗中優良ナル左記品種ヲ栽植シ立毛中ヨリ特別ナル注意ヲ以テ撰擇シ種子用トシテ一般當業者各郡農會并ニ管外希望者ノ希望ニ應シ配布セリ

早 稻	大 場 有 岡
中 早 稻	福 山 伊 勢 錦 米 山
中 稻	東 京 中 生 神 力 畿 內 中 二 號
晚 稻	八 重 穗 竹 成 雄 町 神 力
糯 稻	篠 原 糯 元 氣 糯

(一) 麥作ニ關スル試驗 (本年度ノ收穫)

一、豐凶考照試驗

本試驗ハ明治三十三年度ヨリ繼續シ大小裸麥各三品種ヲ同一地ニ同一栽培法ヲ行ヒ一定時期ニ於テ其生育狀況ヲ調査シ其成績ハ毎回之レヲ累年ト比較對照シ其年次ニ於ケル豐凶ヲ豫想シ是レヲ其筋ニ報

告ス

二、品種試験

從來試験成績ニ基キ撰定シタル優良種ヲ標準トシ更ニ各地ノ優良品種ト認メタル大麥二十種裸麥二十種小麥十八種ヲ蒐集シ其性状收量ノ多寡品質ノ良否ヲ比較對照セシニ前年ト殆ンド同様ニシテ大麥ニアリテハ六角セバリエー、ケーブ、マンモットウンダーゲルステー、ハンナー、等内國種ニテハ川北、白麥、大芒麥等ハ標準種倍取種ニ劣ラザルノ成績ヲ示セリ  
裸麥ニアリテハ橋倉、於染、鎌折、紅梅、釜麥、小珍子、白五郎等ハ標準種タル屋根裸種ニ優ル結果ヲ呈セリ

小麥ニアリテハ和歌山、穗楠、竹野郡在來種、谷光、肥後等ハ標準種タル寶滿種ニ優レリ

三、深耕對畦形試驗

耕土耕鋤ノ深淺カ麥作ニ及ボス影響如何ヲ知ラントスルモノニシテ左ノ六區ニ分チ試驗セリ

- 第一 普通耕
- 第一、高畦作 第二 一寸深耕
- 第三 二寸深耕
- 第四 普通耕
- 第二、平畦作 第五 一寸深耕
- 第六 二寸深耕

右成績ニヨレバ深耕區ハ普通耕區ニ優レリ當場ノ如キ比較的乾燥シ易キ土地ニアリテハ平畦作りハ高畦作りニ比シ一般ニ增收ヲ見タリ

四、深耕ト肥料用量試驗

本試驗ハ水稻同試驗ト同ジク耕鋤ノ深淺ニ對シ肥料用量ヲ異ニスルニ於テ耕地ノ性質收量并ニ肥料ノ得失ヲ知ラントスルモノニシテ左記六區ニ分チ施行セリ但シ多肥區ハ少肥區ノ倍量ヲ施用セリ

- 第一 普通耕
- 少肥區 第二 一寸深耕
- 第三 二寸深耕
- 第四 普通耕
- 多肥區 第五 一寸深耕
- 第六 二寸深耕

右成績ニヨレバ極耕區稍ヤ優リ多肥區ハ少肥區ニ比シ平均ニ於テ七斗餘ノ增收ヲ見タリ

五、窒素肥料種類連用試驗  
稻作ニ於ケル同様異レル窒素肥料ヲ基トシテ配合シタル肥料ヲ連年同一地ニ施ス時ハ土壤ノ理化學的性質ニ如何ナル變化ヲ來タシ作物ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ知ラントスルモノニシテ其結果ニヨレバ硫酸アンモニア區最モ優リ智利硝石人糞尿之レニ次クヲ見タリ

六、石灰窒素連用試驗  
其目的并ニ設計稻作ト同一ニシテ其成績ニ於テモ殆ンド同様ノ結果ヲ呈セリ

七、石灰窒素施用方法試驗  
其目的并ニ設計方法稻作ト同様ニシテ其成績モ殆ンド同様ノ結果ヲ呈シ一週間前後ニ施用シテ敢テ差支ナキモノ、如シ

八、施肥改良試驗

府下現今麥作上ニ於ケル施肥方法ハ是レナ如何ニ改良スルヲ以テ最モ得策トナスカヲ驗シ且ツ是レニヨツテ來ル増收ノ程度ヲ知ラントスルニアリテ葛野乙訓紀伊久世郡地方ノ方法ニ則リ是レニ一部改良ヲ加フル事トシテ施行セリ其結果人糞尿ヲ主要肥料トシテ是レニ過磷酸石灰七貫五百匁糞灰二十貫匁ヲ加施スルハ成績最モ良好ナルモノ、如シ

九、採種用作

當場選定標準種并ニ品種試驗中成績優良ナルモノヲ孰レモ一粒蒔トナシ特別ナル選別ヲ爲シ以テ府下各郡農會并ニ當業者ノ希望ニヨリ配布セリ

一〇、農商務省ノ委托ニ係ル麥芽用大麥試驗ハ左記ノ如ク施行セリ

イ、品種試驗

供試品種

ゴールデンメロン      セバリエー      ツーロードダックビル  
バーモンドチャンピオン

以上四品種ニテ同一試驗ヲ二通りニ施行セリ

ロ、窒素適量試驗

窒素ノ適量ヲ知ラントスルモノニシテ窒素量反一貫匁ヨリ四貫匁迄トシ是レニ無窒素區ヲ加ヘ五區トナシ同一試驗ヲ三通ニ施行セリ

ハ、收穫期試驗

收穫ノ適期ヲ知ラントスルニアリテ左ノ九區ニ分チ同一試驗ヲ二通り施行セリ

ゴールデンメロン	早刈	セバリエー	早刈	ツーロードダックビル	早刈
同	中刈	同	中刈	同	中刈
同	晚刈	同	晚刈	同	晚刈

(三) 調査事業

一、螟虫ニ關スル調査

イ、發蛾期調査 五月十五日ヨリ九月三十日ニ至ル迄毎夜圃場一定ノ場所ニ誘蛾燈ヲ裝置シ誘殺蛾數ニヨリ發蛾時期并ニ其狀況ヲ調査セリ

ロ、加害時期調査 稻移植五日目毎ニ心枯莖ノ發生ヲ檢シ加害ノ時期并ニ其狀況ヲ調査ス

ハ、越冬期調査 藁及刈株内ニ越冬セル幼虫ノ數并ニ存在箇所ヲ調査ス

ニ、第二化發生後ノ調査 第二化發生ノ初期、同最盛期、同最盛後二週間ヲ經過シタル後ノ三期ニ分チ一定面積内ニ於ケル枯莖數并ニ存在虫數ヲ調査ス

二、稻麥特性調査

當場試作ノ各品種ヲ稻ハ一本植麥ハ一粒蒔トナシ發芽後收穫ニ至ル迄ノ生育狀況及ビ收穫後ノ種實稿桿ニ付本年度地方農事試驗場所會議ニ於テ協定セル式ニ準據シ詳細ナル調査ヲ爲シタリ

三、分藥力調査

大、小、裸各品種ヲ一粒蒔トシテコレガ分藥力ヲ調査シ播種量ノ參考ニ供スルト同時ニ劣等株ヲ排除シテ以テ明年度品種試驗用種子ニ供セリ

(四) 見本試作

蔬菜及果樹類ニ付内外ノ優良品種ヲ蒐集シ模範作トシテ一定面積内ニ於ケル輪作法ノ研究并ニ病虫害驅除豫防ノ範ヲ示セリ又藥用工藝用庭園用木ヲ蒐集シ來觀者ノ參考ニ供シ尙採種シ得ラル、モノニツキテハ採種ヲ爲シ隨時希望者ニ配布セリ

(五) 圓筒夏作試驗 (水稻)

一、三要素試驗

本場土壤三要素天然供給量ハ肥料ノ反應如何ニヨリ異ルベキヤ否ヤヲ知り併セテ三要素ノ何レニカ偏シタル場合ノ影響如何ヲ查覈セントスルモノニシテ其成績ニヨレバ本場土壤ハ窒素ニ缺乏スルコト甚敷モ磷酸及ビ加里ハ之ガ缺乏ヲ告グルコト比較的小シ反應ノ如何ハ繼續年數ノ少キガ爲メ未ダ成績ノ斷ジ難キヲ以テ尙繼續確カムル所アラントス

二、石灰窒素施用期試驗

石灰窒素ハ稻苗插秧前何日位ニ施用スルヲ以テ最モ可ナルヤヲ知ラントスルモノニシテ插秧當日施用五日前施用、十日前施用、十五日前施用、二十日前施用ノ五區ニ分チテ試驗シタリ其成績ニヨレバ前年度ト同ジク十五日前施用區最モ良好ニシテ二十日前、十日前施用區之ニ次ギ兩者殆ンド相似タリ當日施用區ハ初期ハ發育ヲ阻害セラレタレトモ漸次回復シテ相當收量ヲ見ルニ至レリ

三、酸性土壤石灰加用試驗

酸性包水珪酸鹽類ニ基因スル酸性土壤ニ對スル石灰施用ノ効果及ビ其適量ヲ知ラントスルモノニシテ石灰量ヲ種々ニ加用シテ試驗ニヨリ螟虫ノ被害多カリシガ爲メ確カナル成績ヲ見ル能ハザリシモ水稻ニ對シテハ石灰施用ノ效果サシテ顯著ナラザルモノ、如シ

四、腐植質土壤石灰加用試驗

腐植質土壤ニ對スル石灰施用ノ效果ヲ知ラントスルニアリテ石灰量ヲ種々ニ加用シ且數年ニ分テ施セシムルノ得失ヲ試驗シタリ其結果ニヨレバ本年度ハ前年度ト異リ無石灰區ハ石灰加用區ヨリモ生育一般ニ劣レリコレニヨリテ見レバ腐植質土壤ニ石灰ヲ加用スルトキハ初メ一二年間ハ石灰加用區却テ生育

不良ナルモ年ヲ經ルト共ニ漸次回復シテ石灰加用區良好トナルモノ、如シ

五、腐植質土壤三要素試驗

府下天田郡上夜久野原野ノ腐植質土壤ヲ石灰ヲ以テ中和シ三要素試驗ヲ行ヒタリ其結果ニヨレバ無磷酸區最モ生育不良ニシテ殆ンド無肥料區ト異ナラズ加里及ビ窒素ハヤ、豐富ナリトス

六、腐植質土壤對肥料反應試驗

肥料ノ反應ヲ酸性トナシ石灰ヲ以テ酸性ヲ中和セルモノト然ラザルモノトニ於テ三要素試驗ヲ行ヒ以テ生育上差異ヲ來タスヤ否ヤヲ見タルニ石灰ヲ施シタルモノモ然ラザルモノモ共ニ無磷酸區ハ生育極メテ不良ニシテ殆ンド無肥料區ト同ジ而シテ一般ノ生育狀況ハ石灰ヲ施サルモノハ肥料ノ反應酸性ナルニモ係ラズ石灰ヲ以テ中和シタルモノニ比シ劣レリコレ腐植質土壤ニ石灰ヲ施シ水田狀態トナストキハ或ル有害物ヲ生成シテ一二年間ハ生育ヲ害スルニヨルモノナランカ

七、石灰窒素肥効比較試驗

石灰窒素ト硫酸アンモニヤトノ肥効ヲ比較セントスルモノニシテ石灰窒素ニ配合スベキ磷酸加里ノ酸性ノモノハ之ニ配合スベキ磷酸加里ノ鹽基性ノモノヨリ并ニ硫酸アンモニヤヨリ其肥効ヤ、優レルコトヲ見タリ

(六) 圓筒冬作試驗 (本年度ノ收穫)

一、荳科植物對肥料反應試驗

肥料反應ノ如何ノ荳科植物ノ生育ニ如何ナル影響アルヤヲ檢シ併セテ肥料ノ反應ニ荳科植物ヲ連作スルニ當リ「イヤ地」病ト如何ナル關係アルヤヲ知ラントスルモノニシテ強酸性、弱酸性、強鹽基性、弱鹽基性、中性ノ五區トナシ供試作物ハ紫雲英、豌豆、クローバー、蠶豆ノ四種ヲ以テセリ其成績ハ前



年ノ通り中性區最モ宜敷強酸性區ハ生育最モ不良ナリキ

二、三要素試驗

目的并ニ設計夏作ト同ジク其成績亦夏作ト同ジ而シテ反應ノ如何ハ未ダ明カナラズ

三、酸性土壤石灰加用試驗

目的并ニ設計夏作ニ同ジク大麥ヲ以テ試驗セリ其成績ニヨレバ大麥ニアリテハ石灰加用ノ効果顯著ニシテ無石灰區ハ枯死シ全酸度中和區最モ優レリ

四、石灰窒素施用期試驗

目的并ニ設計夏作ニ同ジク大麥ヲ以テ試驗セリ其成績亦水稻ト同ジク十五日前施用區最モ良好ナルガ如シ

(七) 蒲生野原野腐植質土壤石灰加用試驗

府下船井郡高原村蒲生野原野ハ強烈ナル腐植酸ノ爲メ不毛ノ地トシテ願ミラザル原野ニシテ面積約二百町步アリ本試驗ハ高原村府立種畜場圃場内ニ地ヲ相シ游離腐植酸并ニ酸性珪酸塩ニ基因セル酸度ヲ定量シ之レガ中和ニ要スル石灰量ヲ種々ニ加用シテ諸種作物ノ肥培ヲ試ミ以テ酸性中和ニ對スル石灰施用ノ効果并ニ用法等ヲ知ラントスルモノニシテ十一區ヲ設ケ供試作物ハ馬鈴薯、甘藷、大豆、蜀黍、蕎麥、萊菔、大麥、燕麥、菘、ルーサーン、レツドクローバーノ十一種ヲ以テセリ其成績ニヨレバ各作物共無石灰區ハ最モ不良ニシテ酸性中和ニ要スル石灰二分ノ一量ヲ初年ニ施用區最モ良好ナルモノ、如シ

(八) 委託試驗

從來試驗ノ結果優良ト認メタル稻麥品種ニ付左記八ヶ所ヲ選定シ該地方ニ於テ廣ク栽培セラレツ、アル優良種トナ同一栽培法ノ下ニ委託者ニ試作セシメ其優劣ヲ判定シ以テ該地方米麥品種撰擇ノ指針トナシ併セテ栽培法ノ範ヲ示サントスルノ目的ニアリテ昨年度ヨリ繼續セリ其結果一二ヶ所ハ不幸ニシテ其目的ニ副ハザリシモ其他ノ地方ニ於テハ其栽培法ニ則ルト同時ニ品種ノ交換希望者多數續出スルニ至レリ

左記

試作品種名

東京、五反穗、雄町、竹成、白笹、改良神力、神力、

委託人名  
相樂郡農會農事試驗場

改良石白、朝日、福山、都、伊勢錦、大和日ノ出、

南桑田郡馬路村

日ノ出、八ッ倉、東京、ナギサ、五反穗

淺田幸次郎

有岡、大場、世直シ、大和日ノ出、福山、長者穗、伊勢錦、萎縮不知、八重穗、

北桑田郡弓削村

有岡、万倍、福山、大和錦、伊勢錦、東京、万作、中生神力、五反穗、

田中喜次郎

有岡、大島、大場、猩々、猩々撰出、神力、雄町、豐年坊、

船井郡須知町

大場、有岡、妙見坊、白富士、伊勢錦、福山、高妙、

澤田吉次郎

八重穗、八ッ倉、雄町、五反穗、

何鹿郡東八田村

有岡、大場、改良石白、夷子、福山、伊勢錦、中生神力、尾崎、五反穗、

天田郡農會

有岡、大場、改良石白、夷子、福山、伊勢錦、中生神力、尾崎、五反穗、

農事試驗場

有岡、大場、改良石白、夷子、福山、伊勢錦、中生神力、尾崎、五反穗、

與謝郡石川村

有岡、大場、改良石白、夷子、福山、伊勢錦、中生神力、尾崎、五反穗、

伊達太平

大場、改良石白、次郎左衛門、大島、福山、朝日、岐  
 阜大關、五反穂、白富士、西方寺、  
 竹野郡農會  
 農事試驗場  
 其他乙訓郡向日町ニ地ヲ相シ從前ヨリ竹自然枯病ニ關スル試驗ヲ施行シ來レドモ未ダ確ナル結果ヲ見  
 ルニ至ラズ尙繼續セントス

(九) 養 鶏

名古屋交趾、白色レグホン、横班ブリモースロツク、黑色ミノルカ、黑色オービントン、吐緩鶏等二百  
 餘羽ヲ飼育シ種卵并ニ雛ノ配布ヲナシ名古屋交趾ノ種卵ハ數量ヲ限り無償配布其他ハ有償配布ヲナセリ

桃山分場之部

(一) 果樹ニ關スル試驗

一、梨品種試驗

昨年ト大同小異ニシテ長十郎梨ノ後ニ於ケル早生赤龍ノ市場ニ於ケル状態モ亦同様ナリ故ニ當業者ニ  
 於テモコノ點ハ大イニ注目スベキ點ナリトス

二、桃品種試驗

昨年報告セルト略ボ同様ナルモ只「アーリーリバー」(市場ニ於テ甘露ト稱セリ)ハ裂核ナルヲ以テ内  
 部ヨリ腐敗シ品質極メテ佳良ナルモ市場用トシテ劣品ナリシガ此ノ果ヲ中果ニ作出スルトキハ裂核果  
 極メテ少ナク内都ヨリ腐敗ノ患少ナキヲ以テ市場用トシテ優品ナラシムルヲ得之レ本種栽培上特ニ注  
 目スベキ點ナリトス

三、李品種試驗

昨年報告セル外ニ鹿兒島産ノ米桃櫻島米桃市成李結實セルモ苗木不純ナリシ爲メ各種混合シ確定シ難  
 キモ一般ニ肉質緊リ良品ニアラズ然レドモ輸送ニ堪ユルヲ以テ市場用トシテハ尙ホ捨ツベカラザルナ  
 リ「コールデングリーンケージ」ハ年々結實増加スルモ外皮餘リ軟キヲ以テ病ニ犯サレ易キ欠點アリ  
 トス

四、櫻桃品種試驗

昨年ト大同小異ニシテ只「モニリヤ」病ノ發生ヲ防止シ得ザルヲ以テ結實歩合豫期ノ如ク多カラザリ  
 キ

五、苹果品種試験

昨年ト大差ナキモ「リバー」スアーリー」ノ如キ白色種モ亦市場ニ於テ稍々注目セララル、傾向ヲ見ルニ至レリ

六、葡萄品種試験

本年モ亦暴風ノ被害ヲ蒙リシモ昨年ニ比シ稍々少ナカリキ各品種共一般ニ結實歩合多ク「ブライト」シ種ハ世人ノ最モ注目スルニ至レリ「レデー」ワシントン」ハ年々其ノ市價ヲ減ジ見込少ナキニ至レリ

七、品種見本試作

梨ハ一〇九品種ニシテ洋梨ハ昨年ノ如ク「ボレー」ジツフアー」。「ダナス」ホウエー」。「プレコー」ス」ハ共ニ早生種ノ良品ニシテ「シユセ」スタングレム」ハ「ホワイト」ベアー」ト同品種ナリ品質稍々劣ルモ結果多ク市場用品トシテ有望ナルモノナリ「チャン」ピオン」。「ウヰ」アマボーン」。「クレ」チアル」ハ共ニ同一品種ノ如クニシテ「バート」レット」ト大差ナキモノ、如ク品質佳良ニシテ結果モ亦多シ其ノ他品質佳良ノ品種ナキニアラザルモ結果ノ歩合等ニ關シ尙ホ調査ヲ要スベキモノ多シ和種ハ今村秋、今村夏秋梨（土佐條重次郎）ノ外太白梨ト稱シ購入セルモノハ眞ノ太白ニアラズ二十世紀梨ノ如シ此ノ果ハ大果又ハ中果ニシテ外皮微黃白色ニシテ肉質極メテ美品質佳良ナリ只病ニ犯サレ易キハ栽培上苦心ヲ要スベキ點ナリトス支那種水香梨ハ結果多クシテ品質佳良ナルモ形狀瓢形ナシ外皮青白色ニシテ洋梨ノ如シコレ將來注目スベキ種ナリトス  
桃ハ油桃ト共ニ一「品種ニシテ前年報告セル「シユメー」カー」。「アドミ」ラルデウエー」。「黃肉種」。「エロー」クリングストン」。「苗木商人」ノ稱セルモノ「カルマン」。「ビヤトリ」ス」。「コン」チツ、サウサルンアーリー」ノ外「グリーン」スポロ」。「晩生」五號「ウオタル」ロー」。「エル」バルタ」。「エマン」ハ成績良好ニシテ「グリーン」スポロ」ハ外皮乳白色中果ニシテ形稍々楕圓肉質佳ナリ一本ノ收量四貫

七百六十多百七十一個ニシテ晩生五號（七月中旬頃成熟）ハ大果又ハ中果形稍々丸ク陽向面ハ著シク紅潮シ肉質緊リテ品質佳良一本ノ收量ハ六貫四百四十多百六十五個ニシテ「グリーン」スポロ」ニ次ギテ成熟ス「ウオタル」ロー」（七月中下旬成熟）ハ外皮淡乳白色ニシテ形ハ「グリーン」スポロ」ヨリハ丸ク大果又ハ中果豊産品質佳良ナリ一本ノ收量六貫五百多二百三十個ニシテ「エル」バルタ」ニ黃肉種八月下旬成熟ス）ハ大果肉質佳良品トス一本三貫六百多八十七個ニシテ「エマン」ハ（黃肉種九月中旬成熟）極大果此ノ時期ハ桃果少ナキトキナルヲ以テ大果ニシテ肉質佳良ナルモノヲ產出スルハ誠ニ有利ナルコトナリトス一本ノ收量二貫百多四十個ナリ只成熟マデ長時日ヲ要スルヲ以テ被害果多キハ此ノ桃ノ不利ナル點ナリトス其他大統領ト稱シ七月中下旬ニ產出シ豐産ナル種アリ（一本四貫百五十多百五十二個）市場用トシテ佳ナルモ味餘リ酸味ニ失セルハ大欠點ナリトス岡山縣ヨリ產出スル土用水蜜桃ト同一品種ナルモノ、如シ而シテ「カルマン」ハ樹勢強健豊産ニシテシカモ果肉良質ニシテ果面ノ軟毛彈カアリテ理想種ナルニ此ノ種ノ一欠點ハ「モニ」リヤ」病ニ犯サレ易キ點ナリトス之レ本年ニ於テ之レヲ認ムルヲ得タリ今後此ノ種ヲ栽培セントスルモノハ深ク注意スベキ點ナリトス  
此ノ他櫻桃、苹果、李及杏、柿、葡萄ハ前年ト大同小異ニツキ之レヲ畧ス  
枇杷ハ從來ノ地方種ニ比セバ長崎枇杷田中枇杷共ニ大果ニシテ肉質佳良充分成熟セシムルトキハ甘味多漿ニシテ優品ヲ得此ノ種ノ成熟期ハ當地ニテハ非常ニ遅レ六月下旬ヨリ七月中旬ニ亘リ他ノ產品ノ減少セル時期ナルヲ以テ市價高ク頗ル有望ナリトス  
八、高等栽培  
葡萄ノ室内栽培ハ今春新ニ二棟ヲ建築セルヲ以テ全部移植シ品種ニ於テ四種ヲ増加セリ樹勢生育佳良ニシテ本年ハ移植ノ爲メ結果極メテ少ナカリキ  
九、病害試験

果樹ノ病害殊ニ介殼虫驅除トシテ石灰硫黄合劑ノ撒布ヲ全圃ニ行ヒタリ(冬期ニ於テ)之レ前年施行セルニ其効果顯著ニシテ特ニ桃樹ノ縮葉病ニ對シテハ偉大ナル効果ヲ認メタリ而シテ其ノ製劑上ニ於テモ其ノ原料ニ於テモ共ニ改良ヲ企テリ即チ原料ニ於テハ硫黄粉末ニシテ價格非常ニ安クシテ効力ニ於テ差ナク實用上有益ナルモノヲ選ビ又製法上ニ於テ濃厚式ヲ以テセルニ時間及ビ其ノ他一切ニ於テ節約シ得頗ル有益ナルニ至レリ

(一) 蔬菜ニ關スル試驗

一、里芋品種試驗

此ノ試驗中「カワラ」芋ハ極ク早生ニシテ產量少ナキモ品質善良ニシテ早作り用トシテ最モ貴ブベキ種ナリトス八ツ頭芋ハ東京附近ニ於テ多ク京都附近ニ於テハ誠ニ少ナキモ肉質極メテ佳良ナルヲ以テ栽培セシニ收量多クシテ大阪市場ニ於テ非常ニ高價(一貫匁貳拾五錢ヨリ參拾錢)ニ販賣シ得シハ今後大イニ注目スベキ種ナリトス

二、南瓜品種試驗

京都ニ於テハ西京南瓜即チ鹿ケ谷南瓜ノ賞味セラレ、モ肉質緻密ニシテ味ノ美ナルモノハ他品種ニアルモノ、如シ特ニ京都地方ハ餘リ大果ヨリハ中小果ヲ好ム風アリ之ノ風習ニ對シテハ縮緬南瓜ノ如キハ味モ佳良ニシテ形モ餘リ大ナラズ好適ノモノナリトス

三、馬鈴薯品種試驗

前年來ト同一ノ方法ヲ以テ試驗セルニ元來品質ノ佳良ナルモノハ一般ニ疫病ニ犯サレ易ク從ヒテ產額少ナシ其中疫病ニ犯サル、コト少ナクシテ收量多ク品質ノ良シキモノハ「サウサレンスタ」  
「シカゴマーケツト」、「ガフイルド」等ニシテ此ノ三種ハ比較的安全ナル良種ナリトス

四、大根品種試驗

本試驗ハ聖護院大根高槻大根桃山漬物大根練馬大根ノ四種ニシテ煮食用兼漬物用トシテハ聖護院大根ニシテ單ニ漬物用トシテハ矢張り桃山漬物大根ヲ以テ土地ニ適セル良種ナリトス

五、菘類品種試驗

本試驗ハ七品種ヲ以テセルニ體菜ハ產額多クシテ需用又多シ其ノ他ノ白菜類ハ產額少ナキノミナラズ需用少ナシ今東京及京都ニ於ケル菘類ノ需用ノ狀況ヲ見ルニ東京ニ於テハ體菜ヨリハ白菜類ノ需用非常ニ多キモ京都ハ之レニ反シ體菜ノ需用多シ之レ從來ノ習慣ニ依リ來レルモノナラン即チ東京ニ於テハ古ヨリ三河島菘類ノ供給アリテ之レニ慣レ京都ニ於テハ壬生菜ノ如キ稍、體菜ニ類セルモノヲ使用シ來レルニヨルモノナラン之レ供給者ノ着目スベキ點ナランカ

六、軟化葱品種試驗

本試驗ハ五品種ヲ用ヒタルニ九條葱最モ收量多ク淺黃葱次ギニ位シ千住葱之レニ次ギ夏葱最モ劣レリ而シテ品質ハ淺黃葱軟カニシテ良品ナルモ莖ハ稍、小ニ失スル欠點アリ要スルニ軟化葱トナスニハ千住葱ヨリハ九條葱又ハ淺黃葱ヲ用フルヲ可ナリトス

七、大根播種期試驗

聖護院大根ヲ七月下旬八月月上旬八月下旬ノ三期ニ分チ下種シ試驗セルニ其ノ結果第二區ナル八月月上旬ニ下種セルモノ收量最モ多ク八月下旬ノモノ其次ニ位シ七月下旬ノモノ最モ少ナキモ價格ニ於テハ八月下旬ノモノ最モ安キヲ以テ矢張り第一區第二區諸ヲ以テ可トス即チ前年通りナリトス

八、香辛料植物見本試作

西洋料理日々ニ多ク需用セラレ、ニ至ルモ之レガ香辛料植物ノ栽培ハ極メテ少ナク多ク輸入品ニ待テリ故ニ之レガ試作ヲナセシニ一般ニ需用多クシテ栽培シ易キハ「ルリ」  
「タイム」  
「サンマーサボリ

「セージ」等ニシテ將來之レガ栽培ハ必要ナリトス  
九、高等栽培

「マスクメロン」ノ室内栽培ハ最初發育極メテ佳良ナリシモ五月末ヨリ六月中旬頃ニ於テ降雨多カリシガタメ開花ノ時期ニ只一株炭疽病發生セルヲ認メ之レガ驅除ニ勉メ其ノ後生育強健ニシテ結實多數ナリシモ成熟期ニ至リ再ビ炭疽病發生シ一ツモ熟實スルモノナキニ至レリ此ノ病害ノ發生スルヲ認ムルヤ種々藥劑ヲ撒布シ之レガ防止ニ力メシモ其ノ目的ヲ達シ得ザリシハ誠ニ遺憾ナリキ以上ノ外玉蜀黍、甘藍、葱頭、蠶豆、豌豆、蔓性矮性菜豆等ノ品種試驗ヲ施行セルモ前年ト畧ボ同様ノ成績ナルヲ以テ之レヲ省畧ス

(三) 見本試作

茄子花椰菜「オクラ」獨活等ヲ見本トシテ試作セリ

綾部分場之部

(一) 蔬菜ニ關スル試驗

一、茄子品種試驗

供試品種ハ二十四種トシ收量多カリシハ小芹川ニシテ大芹川、三島在來、千成種等之レニ次ギ茂木、庄内、札幌、種ハ就中收量少キヲ示セリ品質良好ナルハ茂木、千成種トス

二、南瓜品種試驗

供試品種ヲ六種トシ收量多キハ在來種ニシテ鹿ヶ谷、キジ、菊座、之レニ次ギ縮緬種最モ少ナキヲ示セリ

優品個數多キハ、キジ、早生小南、在來、菊座ノ順ニシテ少キハ縮緬、鹿ヶ谷ナリ

三、越瓜品種試驗

供試品種六種トシ個數多キハ加茂種ニシテ東京大之レニ次ギ重量ニ就テハ東京大最モ多ク早生種之レニ次グ其他ハ前年ト大差ナシ

四、甘藷品種試驗

供試品種ハ六種ニシテ收量ハ前年ト大同小異ナルモ收量ニ於テハ吉田、下總白、下總赤、ノ順位ヲ示シ川越、源氏、新薩摩、ハ收量稍、少ナカリキ

品質ニ於テハ新薩摩、川越ハ孰レモ優良ノモノニシテ其間甲乙ヲ示スニ困ム

五、瓜哇薯品種試驗

本試驗ハ洋種十一種ヲ供シタリ其ノ收量品質共ニ優良ナリシハ「アメリカンマクトナスサリユム」

「パンクスシードリング」「アーリービュテアオブベロン」ニシテ「ブライドオブアメリカン」ハ最モ劣リタリキ

六、薯蕷品種試験

前年ヨリ二品種ヲ増加シ供試品種五種トナシタリ收量最モ多キハ在來種ニシテ大和、伊勢、之レニ次ギ黑種及札幌ハ收量ヤ、少キヲ示セリ品質ニ於テハ伊勢、大和ヲ主位トナスベシ

七、薑品種試験

供試品種ヲ五種トシ收量多キハ中薑ニシテ大薑金時、在來茅根順次之レニ次ゲリ

八、萊菔品種試験

收量多キハ聖護院、練馬丸、鞍馬口、ニシテ粟田、德利、島、宮重、丸尻、美濃早生ト順次其收量少キヲ示セリ

九、萊菔播種期試験

宮重種ヲ供試品トス其成績良好ナリシハ八月三十日播ニシテ之レニ次ギ九月十日播八月二十日播ニシテ九月二十日播九月三十日播ハ收量稍、不良ニ八月十日播ハ虫害多カリシ

十、蕪菁品種試験

收量多キハ天王寺ニシテ聖護院、東京大、湖南、網ノ濱等之レニ次ギ品質ニ於テモ天王寺、聖護院、ハ優良ニシテ近江、波路蕪菁又棄ツベカラザルモノト認ム

十一、蕪菁播種期試験

成績良好ナルハ八月二十日播ニシテ八月三十日播七月三十日播之レニ次ギ七月二十日播ハ稍、不良ノ成績ヲ示セリ

十二、苾類品種試験

供試品種九トシ收量多キハ體菜、長崎白菜、山東菜、直隸白菜、ニシテ最モ收量少ナキヲ示シタルハ朝鮮白菜ナリキ品質ニ於テハ長崎白菜、芝罘白菜、ヲ以テ首位トナスガ如シ

十三、苾類播種期試験

成績良好ナリシハ九月二十日播ニシテ九月十日播八月三十日播キ之レニ次ギ八月二十日播最モ劣等ノ成績ヲ示セルモノ本試験ノ如キハ其年ノ氣候ニ密接ナル關係アルヲ以テ速ニ斷定シ難シ

十四、葱品種試験

供試品種八種トシ收量多カリシハ淺黃細、九條ニシテ根深、千住之レニ次ギ札幌百目等順次其收量少ナカリキ

十五、葱取扱法試験

本試験ハ明治四十年ヨリ繼續セルモノニシテ定植前苗ヲ二週間日乾セルモノ收量最モ多ク次ギハ三週間日乾セルモノニシテ其儘定植セルモノ一週間日乾セルモノ五週間日乾セルモノ之レニ次ギ根及ビ葉ヲ切斷セルモノハ收量少キヲ示セルモノ本試験ハ尙一二回繼續ノ上平均成績ヲ確メントス

十六、蠶豆品種試験

供試品種六種トシ成績優良ナルハ一寸、「アーリーグリーン」ニシテ於多福、早生蠶豆、「ジャイヤアントセビルロングボット」之レニ次ギ在來ハ劣等ナリキ其他ハ前年ト大差ヲ認メズ

十七、甘藷播種期試験

當地方ニ於ケル適當ナル播種期ヲ撰定スルヲ以テ目的トス其成績ニヨレバ五月十五日播六月五日播五月二十五日播ハ收量多ク六月十五日播同二十五日播ノ順ニ收量ヲ減ゼリ依之觀之レバ播種期早キモノハ總シテ收量多キガ如シ

十八、夏葱品種試験

本試驗ノ目的ハ夏葱ノ良種ヲ見出サントスルモノニシテ供試品種六、ニ付キ行ヒタリ其成績ニヨレバ在來(綾部町附近ノ在來)最モ宜ク九條夏、千住夏等ノ順ヲ示セリ

十九、胡瓜品種試驗

本試驗ニ供シタル品種十三、而シテ收量多キハ刈羽節成、青大胡瓜清國大長種ニシテ早生千成種ハ成績最モ劣等ナリキ但シ市場ニ於ケル嗜好及品質ノ點ハ元ヨリ此ノ外ト知ルベシ

二十、蕪菁肥料試驗

標準區、窒素加給區、磷酸加給區、加里加給區、三要素加給區ノ五區ニ付キ試驗セリ成績良好ナルモノハ標準區ニシテ、加里加給區、磷酸加給區、窒素加給區、三要素加給區ノ順位ヲ示セリ

二十一、莖室素質肥料試驗

各種窒素肥料中何ガ適當ナルヤヲ知ラントスルモノニシテ標準區、人屎尿區、菜種油粕區、大豆粕區、硫酸アンモニア區、智利硝石區、石灰窒素區、血粉區、タンケージ區、蛹粉區ニ區別試驗セリ之レガ成績良好ナルモノハ人屎尿區ニシテ、大豆粕區、標準區、硫酸アンモニア區、石灰窒素區、菜種油粕區、血粉區、智利硝石區、タンケージ區、蛹粉區ノ順位ヲ示セリ

二十二、胡瓜病害豫防試驗

本試驗ハ胡瓜ノ病害ニ對シ豫メ各種ノ藥劑ヲ散布シ其何レガ豫防的價値大ナルヤヲ知ラントスルモノニシテ其結果ニヨレバ石灰ボルドー液ヲ第一トシ曹達ボルドー之レニ次キ炭酸銅アンモニア最モ劣レルガ如シ然シ同種ノ藥劑ト雖モ撒布回数ノ大ナルモノハ其小ナルモノヨリモ(二四六回ニ區別セリ)良好ノ成績ヲ示シタリ而シテ本年ハ當附近ノ胡瓜殆ント全部ベト病ニ侵サレ非常ナル減收ナリシモ本試驗ハ豫防ノ爲メ總シテ頗ル優良ノ成績ヲ示セルハ注意スベキ點タルベシ

二十三、胡瓜窒素施用量試驗

本試驗ハ胡瓜ニ對スル窒素施用量ノ適量ヲ知ラントスルモノニシテ反當窒素施用量ヲ二貫、三貫、四貫、五貫、四區トセリ

其成績良好ナルハ五貫、四區ニシテ二貫、四貫、三貫、四貫ノ順ヲ示セリ

二十四、南瓜肥料試驗

普通施肥量外ニ三要素中何レノ成分ヲ加給シタル者ガ好結果ヲ得ルヤヲ知ラントスルモノニシテ標準區、窒素多用區、磷酸多用區、加里多用區ニ別ケ行ヘリ其收量(重量)ノ良好ナルハ標準區ニシテ窒素多用區、磷酸多用區、加里多用區ノ順次ヲ示ス其品質ニ於テハ前年ト同ジク磷酸加給區、加里加給區ヲ最トシ窒素加給區ハ下位ニ居レリ

右ノ外左ノ試驗ヲ行ヘリ

- 葱 品 種 試 驗                      葱 頭 播 種 期 試 驗
- 甘 藍 肥 料 試 驗                      甘 藍 播 種 期 試 驗
- 牛 蒡 品 種 試 驗                      茄 子 肥 料 試 驗
- 里 芋 品 種 試 驗                      大 根 人 屎 尿 用 量 試 驗

(一) 果樹ニ關スル試驗

一、梨品種試驗

品質其他ハ前年ニ等シキモ其收量(重量)ニ於テ成績良好ナリシハ、長十郎ニシテ早生赤龍、今村夏泰平等之レニ次ケリ

二、葡萄品種試驗

供試品種十八、收量多キハ「ペーコン」「カールマン」ニシテ、「エンバイヤーステイト」、「コンコー

ト「カタウバ」之レニ次キ「レデイワシントン」「デラウエア」ハ品質優良ナルモ收量少ナカリキ  
 三、苹果品種試験  
 收量多キハ國光、生娘、ニシテ紅玉、祝、之レニ次ギ紅魁最少收量ヲ示セリ  
 四、生栗殺虫法試験  
 試験區別

第一區	二硫化炭素	三時間	藥劑四夕使用
第二區		四時間	同
第三區		五時間	同
第四區		六時間	同
第五區		二十四時間	同
第六區		三時間	同 八夕使用
第七區		六時間	同
第八區		八時間	同
第九區		十一時間	同
第十區		二十四時間	同
第十一區		四十八時間	同
第十二區		七十二時間	同

以上區別ニヨリ各區共害虫斃死ノ割合(二種ノ害虫ニ付テ)果實ノ色澤及生食蒸食ノ場合ニ品質ニ及ボス關係等ヲ少イクモ二人以上立會ノ上調査シタル成績ニ依ルニ第一、二區ハ虫死セズ果實亦何等ノ

變化ナシ第三區ニテ初メテ斃死スルモ果實中ニ喰ヒ入りシモノモ裸出紙包ノモノモ共ニ時餘ニシテ蘇生スルヲ認ム第五區ニ至リテハ害虫二種共黒變シテ蘇生セズ果實ハ色澤肉質ニ大ナル變化ナク蒸食スルモ亦同シ  
 第六區、虫果實共變化ナシ第七區亦第三區ト大差ナシ  
 第八區、虫死スト雖モ象鼻虫ノ幼虫ノ大ナルモノハ九分ノ三蘇生ス果實ハ水分減少セルガ如シ  
 第九區、亦第八區ト大差ナシ第十區虫死シテ蘇生セズ  
 果實ハ生食ノ場合ハ断面乾燥状態ヲ呈シタル氣味アルモ蒸食ノ場合ハ先ツ以テ標準ノモノト大差ナシ  
 第十一區ハ水分ノ減少肉質硬化ノ傾アルモ大差ナキ事前區ニ近シ第十二區ハ第十一區ト大差ヲ認メザルモ供試果實採收後日數ヲ經過セシ爲メ正確ヲ期シ難シ  
 青酸瓦斯  
 第一區二十分(第二區四十分)ヨリ順次第六區三時間區ニ區分シ十立方尺ノ木製箱(瓦斯ノ漏洩セザル裝置セリ)ニ果實ヲ入レ箱中ノ棚ニ青酸加里(二夕)硫酸(三夕)水(五夕)ヲ入レテ瓦斯ヲ發生セシメ燻蒸セシメタリ其成績ヲ見ルニ第一區第二區ニアリテハ害虫ノ一部生存シ果實亦何等ノ變化ヲ認メズ第三區第四區、虫ハ第二區ニ等シキモ果實ハ生果ニアリテハ水分少シク減シタル感アルモ蒸食スルニ大差ヲ認メズ第五區ハ第四區ヨリ生果ノ場合肉質硬化ノ度大ナル外同様ナリ第六區ニアリテハ害虫全部死ス果實ハ生果ハ多少藥臭ヲ帯ビ且ツ少シク苦味ヲ感ズ蒸食スルニ聊カ藥臭アル疑アリ且ツ風味ヲ少シ損スルガ如シ  
 食塩水  
 液ノ濃度ヲ比重一、一〇及一、一七(飽和液)トシテ浸漬時間ヲ各別ニ分チ前區ノ如ク試験セシニ其ノ結果ハ三晝夜ニシテ虫能ク斃死スル雖モ是レヲ液ヨリ取り出シ清水ニテ洗ヒテ調査シタルニ果實ノ



色澤褪セ黒變シ生食蒸食共食スルニ足ラズ依之觀之食鹽水ハ殺虫ノ目的ニ使用スルハ得策ニアラザルヲ確メタリ

五、生栗貯藏法試驗

貯藏方法ヲ左ノ四種ニ分チテ供試品種ハ晚生大粒長兵衛種ヲ以テセリ

一區、貯藏室中乾砂ニテ埋藏セルモノ

二區、壺中ニ乾砂ニテ埋藏セルモノ

三區、壺中ニ適濕アル鋸屑ニテ埋藏セルモノ

四區、日乾シテ寒冷紗ノ袋ニ入レ屋内ニ釣セルモノ

各區トモ總テ殺虫セルモノヲ用ヒ十二月、二月、四月ノ三回ニ其一部宛ヲ取り出シ生果及、蒸果トシテ調査セリ

第一區、果皮多少褪色セルモ甚シカラズ水分肉質共變化ナシ二月ニ至リテ一粒四月ニ至リテ微カニ發芽セシモノ四粒アリシ外殆ド其目的ヲ達シタリ

第二區、三月中旬迄ハ第一區ト大差ナキモ四月上旬ニ至リテハ五割ノ發芽ヲ催セシヲ認ム

第三區、果皮ノ色澤採集當時ノ如ク鮮ニ水分亦多ク生果蒸果共極テ善良ナリタダ第二區ヨリ發芽伸長早キハ注意スベシ

第四區日乾ヨリ來ル乾燥ノ爲メ果皮褪色シ光澤ナク皮ト肉ト離レ果面ニ皺ヲ生シ肉質硬化シ勝栗ノ如シ四月上旬ニ至ルモ何等ノ變化ナク貯藏ノ目的ヲ逐ケタルモ生果トシテハ價値ナキモノナリ

六、生栗品種貯藏力試驗

如何ナル品種ガ果シテ良ク貯藏ニ堪フルヤ各品種十八種ヲ供用シテ試驗シタルモ供試品ノ數量不足ナリシ故ニ充分ナル調査ヲ逐ゲ得ザリシヲ以テ重ネテ試驗スントス

其ノ他

柿樹品種試驗

栗樹品種試驗

洋梨品種試驗

梅樹品種試驗

栗樹整枝法試驗

同開園法試驗

栗砧木試驗

桃砧木試驗

桃品種試驗

ヲ行ヘリ

(三) 見本試作

一、蔬菜ハ甜菜以下五十種ヲ試作セリ

二、果樹ハ櫻桃以下十二種試作セリ



實地指導 計 三 四 八 四 六

(三) 三種苗配布數量

水	稻	有價	一石八斗六升五合	果樹	有價	五一〇本	綾部分場	一千百九十五本
大	麥	無價	一石	果樹	無價	二三七本	綾部分場	四升三合四勺
裸	麥	無價	一石	花卉	有價	五〇〇袋	綾部分場	三貫五百匁
				花卉	無價	二〇袋	綾部分場	八十七袋
小	麥	無價	三斗	蔬菜	有價	二升	桃山分場	四百二十五本
				蔬菜	無價	四升	桃山分場	二百三十二本
草花種子	無價	五種宛百組		果樹類	苗木	二百二十二本	桃山分場	六百四十九匁
體菜種子	無價	七升		果樹類	栗接穗	六貫四百九十匁	桃山分場	

(四) 野鼠驅除

野鼠驅除ハ効果著シキヲ以テ年々施行反別増加シツ、アリ本年度ニ於テ施行シタル總反別ハ三千四百三十五町歩ニシテ郡別ニヌレバ左ノ如シ

紀伊郡	七百八十五町歩
乙訓郡	五百五十六町歩
久世郡	五十町歩
愛宕郡	四百町歩
南桑田郡	一千二百町歩
船井郡	百八十町歩
加佐郡	二百二十町歩
與謝郡	四十四町歩

(五) 依頼分析件數

本年度ニ於ケル依頼分析ノ件數左ノ如シ

麻	粕	二
牛骨	粕	四
蛹	粕	四
鯨	骨	一
魚	粕	三
大豆	粕	三

硫酸アンモニヤ  
胡麻粕  
蹄屑  
醬油粕  
雜糞屑  
能登産石灰  
菜種油粕  
棉實粕  
配合肥料  
土壌

二 一 一 七 一 二 一 五 一 九 二 五 八

(六) 場用分析件數

本年度ニ於ケル場用分析ノ件數左ノ如シ

過磷酸石灰  
硫酸アンモニヤ  
菜種油粕  
廐肥  
人糞尿  
硫酸加里

二 二 二 二 二 二

木灰  
藁灰  
石灰窒素  
配合肥料  
大豆粕  
大麥  
醸造用大麥  
土壌  
其他

二 二 二 一 七 一 四 五 一 一 六 八

(七) 質問應答件數

肥料土壤ニ關スル件  
病虫害ニ關スル件  
栽培ニ關スル件  
種苗ニ關スル件  
農具ニ關スル件  
養鶏ニ關スル件  
其他

本場  
一五件  
八件  
二八件  
三六件  
五件  
四件  
一四件

桃山分場  
三件  
三四件  
三八件  
二六件  
五件

綾部分場  
三件  
四八件  
六件

(八) 文書受發件數

本場	受一、六〇二	發六五三
桃山分場	受一、四五〇	發三三五
綾部分場	受八九六	發六七三

(九) 來觀人數

本場	二、一六七人
桃山分場	五〇、〇一三人
綾部分場	二、〇〇〇人
計	五四、一八〇人

(一〇) 會計事務

本年度ニ於ケル經費左ノ如シ

一金貳萬四百九拾八圓參拾錢

內

一金五千九百參拾貳圓

一金參千四百九拾圓貳拾四錢

一金貳千八百參拾九圓拾壹錢

一金七千八百九拾六圓九拾五錢

事務場雜業

費費給給

一金參百四拾圓

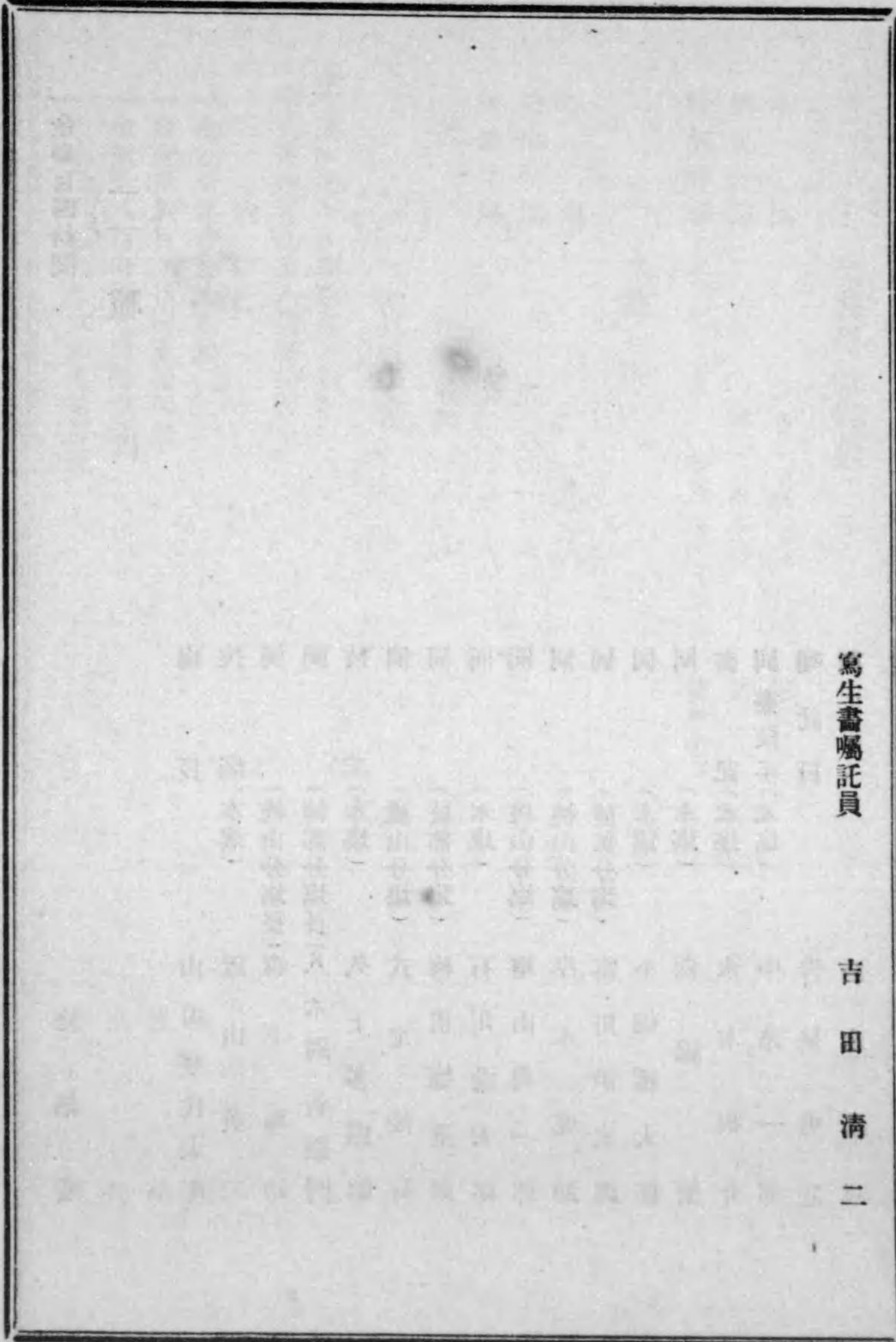
(一一) 職員

修繕費

場	長	山田登代太郎
技	師(本場)	近山廣二
同	(桃山分場長)	森下馬助
同	(綾部分場長)	八木岡新衛門
技	手(本場)	久下多四郎
同	(桃山分場)	式地俊材
同	(綾部分場)	梅田德重郎
同	(本場)	石川瀧太郎
同	(桃山分場)	増山與一郎
同	(桃山分場)	岸本虎助
同	(綾部分場)	富田伊太郎
同	(本場)	小畑延太郎
同	(本場)	森脇繁郎
書	記(本場)	永木一介
同	兼技手(本場)	中路一介
囑	託員	岩見勇造
同		清水勝雄

寫生書囑託員

吉田清二



大正二年八月十七日印刷  
大正二年八月二十日發行

# 京都府立農事試驗場

(葛野郡桂村)

京都市上京區下立賣通小川東入  
西大路町十番戶

印刷者 中西勝太郎

京都市上京區下立賣通小川東入  
西大路町十番戶

印刷所 中西印刷合名會社

14.24  
275

大清光緒二十一年  
正月二十七日

海防軍立製中局

上海  
光緒二十一年  
正月二十七日

終

